

【2月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢／男児／活発) (2歳10カ月／4月生まれ)	Bさん(高月齢／女児／活発) (2歳9カ月／5月生まれ)	Cさん(高月齢／男児／静か) (2歳8カ月／6月生まれ)	Dさん(高月齢／女児／静か) (2歳7カ月／7月生まれ)
子どもの姿	1. トイレでの排尿が安定してきたが、遊びに夢中になっている中でオムツに排尿したときは、言い出しにくそうにもじもじする姿が見られた。 2. 戸外で追いかけてこをしたり、雪や霜柱に触れたり踏んだりして、感触を味わっていた。 3. 貰い物ごっこでは、普段の生活の再現をしたり、保育者や友だちと言葉でのやり取りを盛んに楽しんでいた。	1. 下痢と嘔吐が続いて一週間ほど休み、登園時は保護者と離れたがらない姿が見られ、食欲も落ちていた。 2. ボタンかけの玩具で遊び、できると「見て！」と保育者に見せていた。 3. 保育者の話や説明をよく覚えており、製作あそびでハサミを使った日は、お迎えの際に「チョッキンしたよ」「ハサミは危ないんだよ」と保護者に伝えていた。		
ねらい	1. 尿意に気づいてトイレに行こうとする 2. 冬の自然に興味を持ち、不思議さや面白さを感じる	1. 保健的で安全な環境でゆったりと過ごしながら、安心感を味わう 2. 指先を使った遊びを十分に楽しむ中で、充実感を味わう		
内容	1. 保育者に声をかけられたり自ら尿意に気づいてトイレに行き、排尿する心地よさを感じる。 2. 戸外で雪や氷、霜柱などの自然物を見つけ、手で触ったり足で踏みながら感触を楽しむ。	1. 保育者に思いを受け止めてもらったり、体調に合わせて十分な休息を取りながら、快適に過ごす。 2. 保育者に見守られながら、ボタンかけや洗濯ばさみ遊びを楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 排尿サインを見逃さずに声をかけて尿意に気づけるようにし、トイレに向かえたときは「間に合ったね」と大いにほめ、自信につなげる。タイミングが合わずにオムツに排尿してしまったときは、本児の気まずさに寄り添いつつ、「またトイレに行こうね」「おしっこがしたくなったら、教えてね」と、次へとつながる前向きな言葉がけを行う。 2. 気温が下がる前日に、バケツや小さなカップに水を張って水ができるように準備したり、安全に配慮しながら雪遊びを行う。本児なりに自由に自然物に触れる姿を見守りながら、「ツルツルするね」「冷たいね」「溶けちゃったね」など、感触や形が変わる不思議さや面白さを言葉にして伝え、好奇心を育む。	1. 感染症の流行が続く時期なので、下痢や嘔吐の処理について再確認するとともに、日々室温や湿度を適切に保ったり、玩具や家具の消毒をこまめに行い、感染症の拡大を防止しながら快適に過ごせる環境を整える。機嫌が悪いときはその後の体調の変化にも注意しつつ、スキンシップを図りながら思いを受け止めたり、静かな環境で体を休められるように配慮し、安心して過ごせるように関わる。 2. 椅子や床に座りながら、落ち着いて取り組むことができる環境を整える。集中して楽しむ様子を近くで見守り、本児が保育者に顔を向けた際は、目を合わせながら「できたね！」と喜びに共感し、達成感や充実感を味わえるように関わる。		
食事	・山盛りに食材をすくって食べようとする姿が見られるので、安全に配慮してさきげなく止め、一口量をすくって示しながら、「このくらいが食べやすいよ」と伝える。 ・姿勢が崩れているときは、椅子や机の高さが合っているか確認するとともに、「前を向こうね」「手は机の上に出そうね」と、わかりやすい言葉がけを行う。	・友だちとやり取りをしながら落ち着いて食べる姿を見守り、時にやり取りに加わり、みんなと一緒に食べる楽しさや喜びに共感する。 ・病み上がりで食欲がない日は食べる手が止まっていたので、普段と違う様子が見られるときは、「もうお腹がいっぱいかな」と尋ね、本児の様子に合わせて切り上げるなど、柔軟に対応する。		
家庭との連携	3. 特定の友だちとのやり取りが増えてきたので、関わる様子を具体的に伝え、家庭でも園での話をするきっかけとなるようにする。 ・登園時に離れたがらなかつたり、逆に帰りがらないなどの甘えが見られるときは、保護者に協力を仰いで時間をもらい、本児が気持ちを切り替えられるように、思いを受け止めながら関わる。	3. 本児なりに保護者に伝えようとする姿を側で見守り、必要に応じて言葉を補いながら、思いが伝わる喜びを感じられるようにするとともに、保護者にも本児の成長を感じてもらえるようにする。 ・様々な自己主張が見られる時期なので、保護者の悩みや不安に寄り添いつつ、思いを受け止めながら関わる大切さを丁寧に伝えていく。		
評価・反省	1. 遊びを切り上げられずにオムツに排尿する場面もあったが、その後に自分なりのタイミングでトイレに向かい、オムツを交換してもらったり、便器に座っていた。本児のペースを大切にしながら、焦らずに見守っていく。 2. 保育者と一緒に「ぎゅっぎゅっ」と言いながら雪の上を歩き、踏む感触を楽しんだ。暖かくなってきたら散歩に出かけ、園庭にはない自然物にも触れられるようにして、さらに興味を育みたい。	1. 今月も発熱で欠席したり、咳や鼻水などの風邪症状が見られた。引き続き保育室内の消毒や換気を徹底するとともに、本児の体調に合わせて無理なく過ごせるよう、個別に対応する。 2. 人形の服のボタンもかけられるようになり、指先の動きが少しずつ巧みになってきた。遊びの中で手指の様々な動きを経験できるように、発達を促す玩具を選んで入れ替えたり、手作りしながら取り入れたい。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧＆DL可能！

子どもの姿の1, 2は『ねらい／内容／環境構成・配慮・援助／評価・反省』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記：ウェブサイトにも当社方針を記載しております。

ほいくのおまもり **Plus!**

ダウンロードのお礼とおまもりプラスについて

この度は個人案をダウンロードいただき、ありがとうございます！

ほいくのおまもりプラスでは、**性別／タイプ別／月齢別の12名分の個人案（0,1,2歳児）**をご用意しています。更に・・・

- **無料版の2倍の月案文例**
- 丸1ヶ月分の月～金の全ての週案
- 毎月45個の製作型紙
- 毎月2つのスケッチブックシアター
- その他、会員だけのコンテンツ

これだけ揃って、**月額980円＋税**の大特価！気になる人は、以下からおまもりプラスのサービスを確認してみてくださいね。



文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー＆ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。